

時間割コード	KB1501	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	A(食生命)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	長谷川 守文, 上妻 由章, 白岩 雅和, 安江 健, 小島 俊雄, 西澤 智康				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

フレッシュマンゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回: シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任について1

第2回: 大学という学修・生活環境における自由と責任について2

第3回: 高校から大学への「学びの転換」

第4回: 図書館の活用

第5回: 「聞く」、「話す」に関する技法と作法

第6回: 「読む」、「書く」に関する技法と作法

第7回: 作文: 茨城大学農学部での学びと卒業後の自分について・演習I: 研究室訪問に向けてグループで調べる～農学部と食生命科学科について

- ・指定された課題での作文を授業中に書く
- ・学科・カリキュラムに関する質問事項(学生生活、授業、単位、学生実験、進路、大学院など)を議論し、まとめる

第8回: 演習II: 研究室訪問に向けてグループで調べる～コースおよび研究の取り組み

・ 学科コース・研究に関する質問事項(研究室での取り組みなど)を議論し、まとめる

第9回: 阿見キャンパスオリエンテーション*

・ 農学部施設見学(IFC、GRC、図書館、学生寮)を行い、情報を収集する

第10回: 阿見キャンパスオリエンテーション*

・ グループ担当の研究室を訪問し、研究内容や実験機器等の詳細について情報を収集する

第11回: 阿見キャンパスオリエンテーション*

・ グループで研究室を自由に訪問し、コースや研究概要等の詳細について調べる

第12回: 阿見キャンパスオリエンテーション*

・ グループで研究室を自由に訪問し、阿見キャンパスでの学生生活に関する情報を収集する

第13回: 演習Ⅲ : グループ発表の資料をつくる

第14・15回: 演習IV: グループで発表

・ 担当の研究室について、パワーポイント等を用いてグループで発表を行う

*第9回～第12回は6/27(土)に実施するので、注意すること

【授業外学修】

(1) 教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

(2) 阿見キャンパスオリエンテーションでは、見学時間が限られているので、見学時に質問すべきポイントを事前の予習によって整理しておくこと。5回の演習のうち、グループで行う場合には、分担を決めるとともに、相互にコミュニケーションをとること。個人の考えをある程度まとめたところで、互いに議論する時間を授業時間外にも確保し、その記録を残しておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1～6回では教科書に記載されているアクティブ・ラーニング(AL)課題におおよそ沿った内容でグループディスカッションを行う。

(2) 第7, 8回では食生命科学科についてのグループでの事前調査を行い、第9～12回では現地調査をグループで行う。

(3) 第13回で調査結果をグループで取りまとめ、第14, 15回でグループ発表を行う。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

・ 第1～8回の授業ではインターネットでの調査が必要となる場合があるので、PC、スマートフォン等を持参すること。

・ 第13～15回の演習ではパワーポイントを使ったプレゼンテーションを作成してグループ発表を行うため、PCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 自律的な学生生活を送るためのスキルを初年次生を超えたレベルで身につけ、食生命科学科のカリキュラムや研究内容を十分に理解し、非常に分かりやすいプレゼンテーションができる。

A : 自律的な学生生活を送るためのスキルを初年次生としてふさわしいレベルで身につけ、食生命科学科のカリキュラムや研究内容をほぼ理解し、分かりやすいプレゼンテーションができる。

B : 自律的な学生生活を送るためのスキルをある程度身につけ、食生命科学科のカリキュラムや研究内容をある程度理解し、概ね理解できる

プレゼンテーションができる。

C : 自律的な学生生活を送るためのスキルを最低限身につけ、食生命科学科のカリキュラムや研究内容を最低限理解し、不十分ながらも理解できるプレゼンテーションができる。

D : 自律的な学生生活を送るためのスキルがほとんど身につかず、食生命科学科のカリキュラムや研究内容をほとんど理解できず、理解できるプレゼンテーションができない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。授業時のディスカッションへの取り組み（40%）や作文（20%）、プレゼンテーション（40%）により総合的に評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング = Study Skills Training : 大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子 著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	4407340614
教材費	1200

参考書2

書名	大学学びのことはじめ：初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明, 矢島彰, 山本明志 編
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	9784779508387
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2015

ISBN	4874246508
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1502	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	A(地域)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	中島 雅己, 菊田 真吾, 七夕 小百合, 小松崎 将一, 西川 邦夫, 増富 祐司				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

フレッシュマンゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。
--

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任 地域総合農学科のガイダンス、「茨城大学での学修の手引き」を用いて大学における学修へのガイダンス、自己紹介を行い、担任と知り合い、共に学ぶ仲間を知る。</p> <p>第2回：高校から大学への「学びの転換」 「茨城大学での学修の手引き」を用いて茨城大学の教育体制、大学での授業形態、授業の履修に関するルール、4年間の教育課程、iOPクォーターの有効活用等について説明する。</p> <p>第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法 「茨城大学での学修の手引き」を題材に用いて講義の聞き方、プレゼンテーションでの話し方、聞き方についてディスカッションする。</p> <p>第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法 「茨城大学での学修の手引き」を題材に用いて卒業論文を書くことを想定し、卒業論文を書くために必要な「読む」こと「書く」ことについてディスカッションする。</p> <p>第5回：図書館の活用(注※) 図書館ガイダンスの説明を受ける。図書館の活用、情報の集め方についてディスカッションする。</p>
--

第6回：学びの技法

グループによる阿見キャンパスオリエンテーションの課題設定（4年間の学習計画策定のため）。グループでディスカッションを行う。

第7回：阿見キャンパスオリエンテーションI

農学部施設（iFC、GRC、図書館、学生寮）を見学し情報を収集する。

第8回：阿見キャンパスオリエンテーションII

研究室を訪問し研究内容等について情報を収集する。

第9回：阿見キャンパスオリエンテーションIII

在校生や留学生へのグループインタビューを実施する。

第10回：阿見キャンパスオリエンテーションIV

卒業生へのグループインタビューを実施する。

第11回：阿見キャンパスオリエンテーションのまとめ I

プレゼンテーション資料を作成し、グループ発表の練習を行う。

第12回：阿見キャンパスオリエンテーションのまとめ II

グループ発表を実施し、調査結果を共有する。

第13回：演習I

留学、インターンシップなどiOPクォーターの活用について調査する。

第14回：演習II

進路や就職について調査する。演習I・IIを整理し、各自レポートおよび発表の準備を行う。
<課題> 4年間の履修計画を各自作成し、レポートとして提出する。

第15回：演習 III

学生による個人発表。

※図書館ガイダンスの日程は変更の可能性があります。

【授業外学修】

教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・commonsなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディスカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

11回目からの授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について十分説明ができています。
- A : 自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について説明ができています。
- B : 自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について概ね説明ができています。

- C : 自律的な学生生活を行なうための知識・技能を修得するとともに、自らの専門分野について最低限の説明ができています。
- D : 自律的な学生生活を行なうための知識・技能が修得できておらず、自らの専門分野について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①授業への取り組み状況：50%，②課題レポート各25%③プレゼンテーション（25%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリック（注※）で評価する。

※ルーブリックは授業内で配付して、学生と共通理解を図る。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--